

頌 栄

No. 103

日本キリスト教団 頌栄教会

〒155-0031

世田谷区北沢 1-42-10

Tel 03-3467-3664

Fax 03-3467-8332



パトモス島のヨハネの礼拝

牧師 清弘 剛生

ある主の日のこと、わたしは
 “霊”に満たされていたが、
 後ろの方でラツパのように響く
 大声を聞いた。黙示録一・二〇

ヨハネは当時の流刑地であ
 ったパトモス島に抑留されて
 いました。もはや信仰の友と
 共に集まって礼拝をささげる
 ことはできません。このヨハ
 ネのように、私たちにも、目に
 見える形で集まることができ
 ない時があります。現在は多
 くの人が新型コロナウイルス
 のために自宅で礼拝をささげ
 ています。しかし、目に見える
 形で集まれないとしても、変
 わることなく「主の日」は巡っ
 てまいります。変わることに
 ない主の恵みです。

その日は「主の日」でした。

「わたしは“霊”に満たされ
 ていた」と書かれています。ヨ
 ハネは孤独の中で礼拝をささ
 げ、“霊”に満たされて祈っ
 ていたのでしよう。そのよう
 なヨハネが、「後ろの方でラツ
 パのように響く大声を聞いた」
 のです。ヨハネは語りかける
 声の主を見ようとして振り向
 きました。「振り向くと、七つ
 の金の燭台が見え、燭台の中
 央には、人の子のような方が
 おり、足まで届く衣を着て、胸
 には金の帯を締めておられた」
 (一二・一三節)と書かれて
 います。それは復活したキリ
 ストでした。

ヨハネが前から声をかけら

れたのなら、そこで初めて主
 が現れたということになるで
 しょう。しかし、後ろから声が
 したという描写は、ヨハネが
 振り向いて見る前に、主は既
 にそこにおられたということ
 を意味します。独りで礼拝し
 ていたその時に、主は確かに
 共におられたのです。

しかも、振り向いたヨハネ
 がそこで目にしたのは「七つ
 の金の燭台」でした。「七つの
 燭台は七つの教会である」(二
 〇節)と説明されています。ヨ
 ハネの後ろには教会がいたの
 です。ヨハネは独りではあり
 ませんでした。遠く引き離さ
 れているはずの教会が霊にお
 いては共にいることをヨハネ
 は知らされたのです。そして、
 これこそ私たちが主の日に自
 宅においてささげるささやか
 な礼拝においても起こってい
 ることなのです。